

江戸の時代の城下町を思い浮かべながら、姫路の町をお散歩。

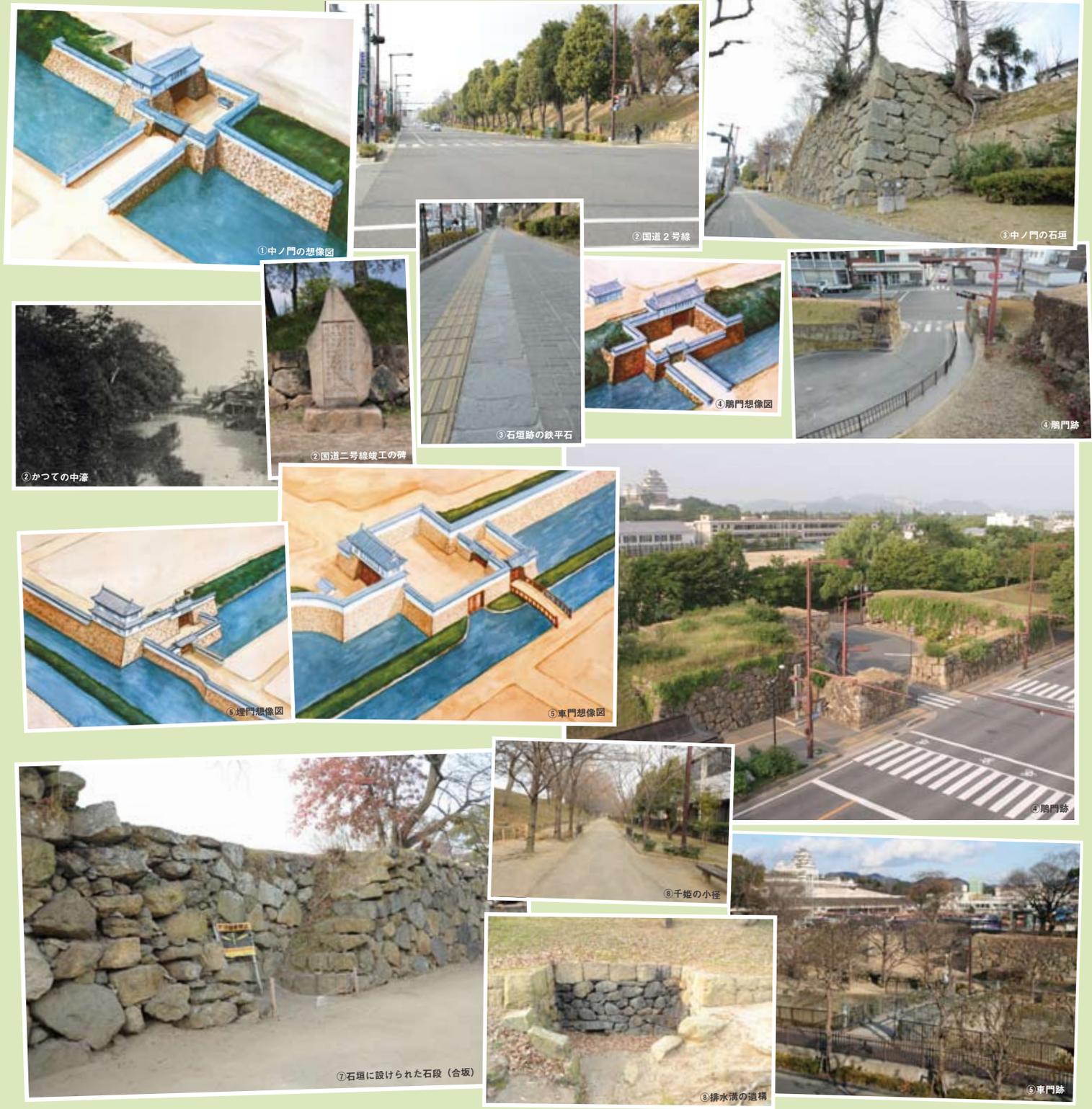
姫路城中濠と門跡めぐり

姫路駅かいつての外濠があった場所。つまり姫路駅から天守閣までのいまの町並はすべて「城内」なのです。そのエリアを門跡をめぐって歩いてみてください。



所要時間

30分



所要時間：約30分（見学時間含まず）

姫路城中濠と門跡めぐり

姫路駅おひつての外濠があった場所。つまり姫路駅から天守閣までのいまの町並はすべて「城内」なのです。そのエリアを門跡をめぐって歩いてみてください。



所要時間

30分

1 中ノ門跡

中ノ門は、**飾磨津門**から城内に入る**正門**で大手門と記す古地図もあります。伝承によれば中ノ門は外門と内門からなる**枡形門**でその偉容は西国街道を行き来する旅人を威圧したといひます。(案内板あり)

5 埋門跡

埋門も小型の**枡形門**で、石垣上に築かれた**二層の櫓**が特徴。西から川や濠を越えた敵に備えています。**この門は姫路城の裏鬼門**にあたることから平時は閉じられたままで、「埋門」の名も今は埋められた門であると鬼を偽る狙いがあったといひます。

6 車門跡

車門は**西国街道**に面し、ここから**建築資材などを運び入れた**ことからこの名があるといひ、またこの門には船場川から直接、船を入れるための扉も備えられていたようです。西国街道に面していることから**最も敵の攻撃を受けやすい門**で戦時には門前の木橋を落としたり守りを固めたものと思われまふ。門の形状も**二重の枡形**を有するめずらしいものです。

2 国道二号線

現在の国道二号線は**中濠を埋めて建設**されました。昭和のはじめには、まだ濠があり蓮の花が美しくたと伝えられ、石垣沿いには**国道二号線竣工の碑**も立っています。ちなみに国道沿いに打たれた石垣は近年のもので、中濠沿いでは門の付近にしか石垣はなく、本来は**土塁が掘かれて**いました。

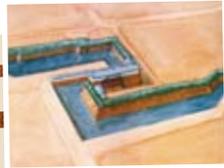
3 中ノ門の石垣

中ノ門の石垣は大正時代のはじめの濠の埋め立ての際に取り壊され、現在はほんの一部しか残っていません。しかしその概容から江戸時代、ここにそびえていた**巨大な櫓門の姿**を想像することができます。ちなみに歩道の上に埋められた**黒い鉄平石**は、後の調査によって発掘された**石垣の跡**を示しています。

4 鷗門跡

鷗門はめずらしい**枡形門**といわれる形状で、中曲輪に設けられた十一門のうち**もつとも遺構が残っており**、往時の姿を想像することができます。石垣の上には**かつて櫓門がそびえ立ち**、外門を越えて攻め込む敵を狙いすましていたことでしょう。外門を破り勢いついた敵もこの櫓門の侵入を阻まれ、三方から打ち込まれる矢玉になす術はありませんでした。

山陽電車のターミナルがある場所には、姫路城の外濠である飾磨津からの敵に備えて「飾磨津門」が築かれていました。



7 合坂

石垣につけられた**階段を城郭では「坂」と称し**、石垣に設けられた石段を「合坂」といひます。その近くには狭い「**雁木**」と呼ばれる石段もあります。

8 千姫の小徑

車門の内側から北へのびる小徑は「千姫の小徑」と名付けられ、地元の人たちの朝の散歩コースで、**春には隠れた桜の名所**となります。ここからは、めずらしい**排水溝の遺構**を見ることができまふ。城郭建築で大切なのは雨水や生活用水の処理で、こうした遺構に江戸時代の人々の智慧を垣間見ることができまふ。

もちょっとお勉強。

参考文献：姫路ぶらぶらガイドブック／姫路えとこマップ（姫路円卓会議発行 2009.9）諸門の想像図（多田初治画）

枡形門とは

姫路城は内濠・中濠・外濠の三重の濠で守られており、内濠内には城主の屋敷や天守、中濠内には武家町、外濠内には町人町や寺社・下級武士の長屋などが置かれていました。今回、ご紹介した中濠には全部で十一の門があり、この十一口を組み合わせると「吉」に

転じるとの意味あいがあるといひます。なかでも南面に設けられた五つの門は、西国街道を守る重要な門となります。そのためこれらの門のうち四門は内門と外門という二重の門によって守られており、こうした門は「枡形門」と呼ばれまふ。枡形とは門と門の間に設けられた小さな四角い広場のことで、ここに侵入した敵は逃げ場を失い内門の櫓をはじめ、

四方八方から攻撃を受ける究極の門なのですが、姫路城内に現存する諸門に枡形門はありません。また弓は左向き半身で構えるため左側の敵の方が攻撃しやすいため、ほとんどの枡形門は右折れとなっています。ところが姫路城には右折れの枡形門は存在せず、鷗門のように折れていない枡形門すらありまふ。

